

電子コミュニティ環境（コムートラネット） の開発と実用研究

4 Y-5

福市 良次 清水 勉 久保田 文幸 日本電信電話株式会社^{*1}
三宅 武司 NTTソフトウェア株式会社^{*2}
松下 恵進 株式会社 数理技研^{*3}

1.はじめに

事業にかかわらず、福祉活動、医療活動その他の社会活動グループの情報交流、情報共有をインターネット上で展開する電子コミュニティ環境（以下コムートラネットと記す）を開発し、（社）日本社会福祉士会と運用実験を開始した。

ここでは、コムートラネットのシステム概要を述べると共に、こうした活動グループがコムートラネットを活用することの効果、課題などについて述べる。

2.サービス内容

・会員相互のQ&A

会員は他の会員に意見、知識を求める場合、問合せ記事を随時Webサイト内の投入用ページから投入することにより、同一サイト内のWebページ^{*1}上に掲載が可能となる。

問い合わせ内容に対しての意見、知識、コメント等も同様に投入が可能であり、問合せ記事が掲載された同一のWebページ上に掲載される。

・会員意見の収集

サービス運営事務局（社会福祉士会会員で構成）は、問題提起記事を投入用Webページから投入することにより、サービス運営事務局以外の会員が、この問題提起記事に対する意見を投入することにより、迅速かつ容易に意見の収

集が可能となる。

3.機能概要

サービス実現の機能概要を以下に示す。

・リアルタイム投稿機能（操作性の向上）

すべての記事はWebページ上にワープロ感覚で即座に投稿が可能となる。

・情報掲載期間自動管理機能（運用管理の軽減）

イベント、催し物などの案内情報は、予め、掲載希望期間、イベント実施日を設定することにより、掲載期間を超過したり終了した情報については自動的に削除（バックナンバー化）又は、「イベント終了マーク」が付与される。

・専門用語解説/関連Webページへ自動リンク機能（運用性の向上）

サービス運営事務局が、予め、関連分野の専門用語とその解説文、関連団体名とそのWebページURLを登録しておくことにより、会員が投稿した記事内容に登録した用語や団体名が含まれていると、当該用語や団体名から「解説文」や「Webページ」にリンクが自動的に張られ、この用語や団体名をクリックすると、用語解説文やWebページが表示され、記事内容の補足説明が可能となる。

・新規情報自動掲載、通知機能（運用性、操作性の向上）

投稿、更新された記事内容は、該当するWebページに掲載されると共に、コムートラネットトップページに設けられた「新着情報掲載」にも連動して掲載される。

自動通知機能は、常時Webページを参照出来ない会員のために、記事投稿が行われたことを、電子メールで通知する機能である。

◆1 WWWのテキストをブラウザーに表示させた1ページ

A development and evaluation of The Commutranet

*1 Ryouji Fukuichi Tutomu Shimizu Fumiyuki Kubota
NTT Multimedia Communication Promotion Department

*2 Takeshi Miyake

NTT Software Corporation New Business Sector

*3 Keishin Matushita

SURIGIKEN CO.,LTD.

記事投稿・更新状況について電子メールで通知を希望する会員は、自らWebページ上で必要とする情報の分野、通知周期（月、週、日別即時）を設定することにより、通知を受けることができる。

4. ネットワーク構成

全国に散在する会員、サービス運営事務局及び、本コミュニティネットサーバはインターネットにより接続される。

5. プログラム構成

プログラム構成は基盤層、機能層、サービス層から構成されている。

基盤層は各種情報のデータベース処理部である。

機能層においては、前3項で述べた、更新情報通知投稿掲示、用語・URL自動リンク等の各種機能を実現するモジュールで構成される。

サービス層はこれら機能を具体的に会員に提供するサービスアプリケーションとして、Q&Aや意見収集サービスを起動する。

6. 処理概念

情報投稿機能の処理概念を述べる。(図1)

ブラウザからの文書書込要求に基づきHTTPファイルを読み出し、プロトコル変換処理を行う。更にHTML部品ファイルを読み出し、Webインタフェースの整合を行い、データベース部の呼出・更新・登録を行う。更新されたデータベース内容を利用者管理ファイルに既定されたフォーマット（タイトル、ダイジェスト、本文、等）情報に基づいて編集して（フィルター処理）電子メールで送信する。

7. 活動グループのコミュニティネット活用の効果

- ・ 情報発信の利便性の向上
 - 遠隔地、相手不在、迅速
- ・ 同報周知によるコスト削減
 - 時間、送信費、紙 等
- ・ 情報管理の省力化
 - データベース、検索

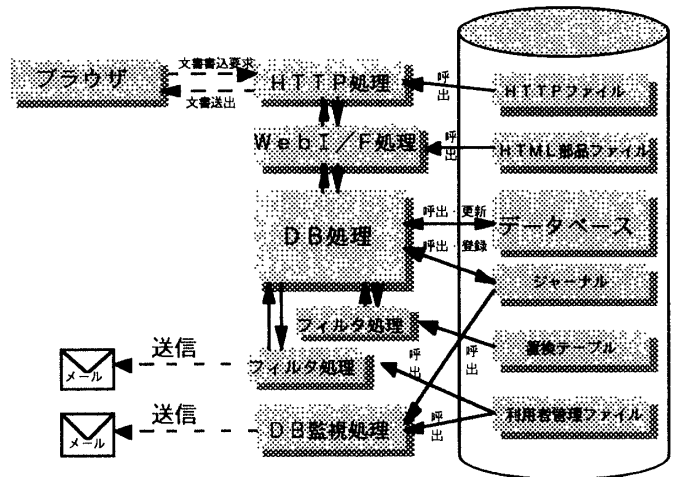


図1 処理概念

8. コミュニティネット活用の留意点

- 1) サービス運営事務局が会員管理を確実に実行しており、情報の取扱権限を持っていること。
- 2) 原則として、会員相互間での利用に限ること。

9. 開発のポイント

インタラクティブ性を確保するため、操作性、運用性を向上させるために、会員、サービス運営事務局メンバーが、ワープロを使える程度であれば運用可能とすることを目標としている。

10. 開発上の課題

- 1) 記事の再編集機能の付与
- 2) システム移行の容易性の向上
- 3) 動画・音声情報の取込み
- 4) 利用喚起機能の付与
- 5) 画面階層の案内機能の付与
- 6) 期日管理、記事数の管理

11. おわりに

今後、運用実験で得られた上記の課題について対処し、システムの改善を図って行く予定である。

なお、運用実験に協力頂いている（社）日本社会福祉士会に謝意を表します。